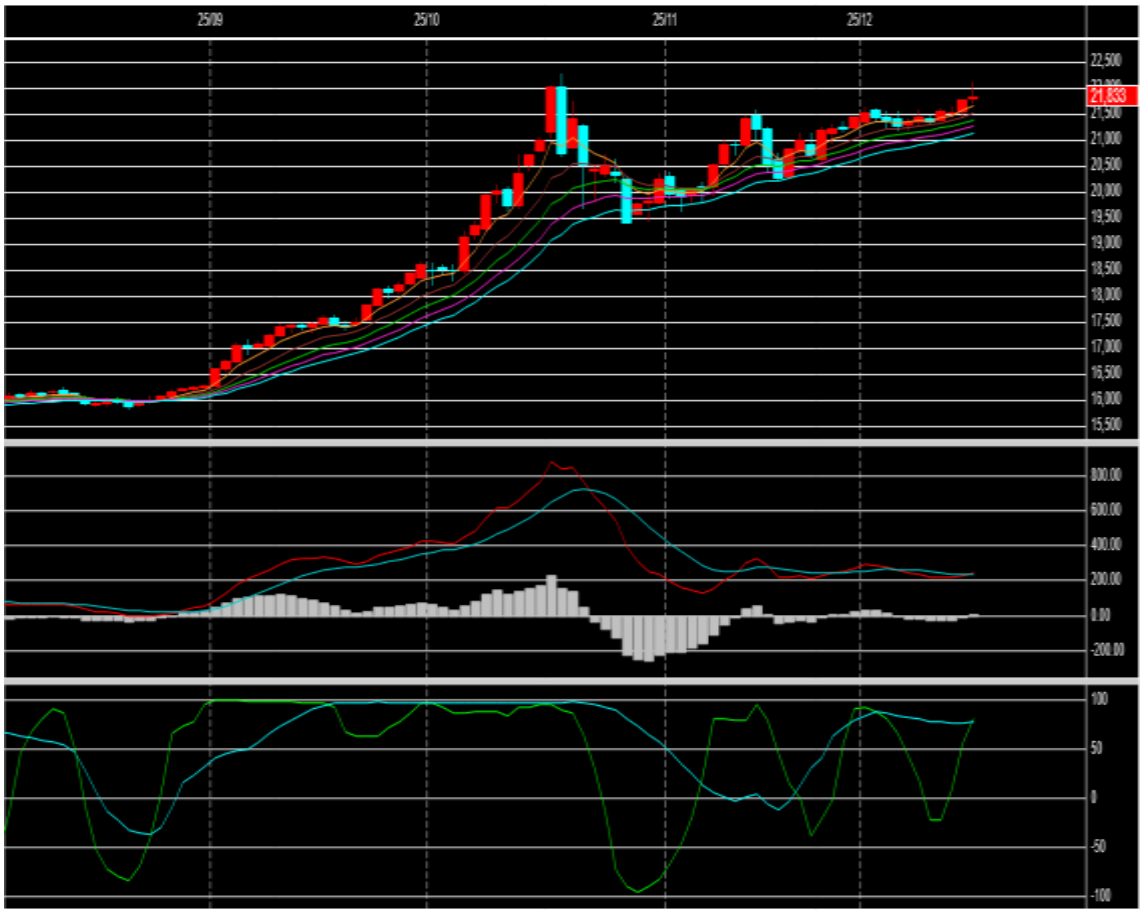
2025/12/15

＜金標準、史上最高値を更新する値動きに備える・・＞



（出所：オアシス）

今年最後の FOMC が開催され、FF レート誘導目標を賛成 9、反対 3 で 3 回連続 0.25%引き下げを実施し 3.75%へ変更している。また FOMC メンバーが示す 2026 年の金利予測であるドットチャートでも年 1 回の利下げが示唆され、市場の思惑通りの動きを見せている。またパウエル FRB 議長の記者会見では、「金融政策はあらかじめ決められた道筋にあるわけではなく、会合ごとに判断を下していく」と改めて言及するも「新たな金利・経済見通しに基づくと、次の動きが利上げになる可能性は低い」とし「利上げが誰にとっても基本シナリオだとは思わない」と言及している。特に銀行準備の十分な供給を維持するため、総額 400 億ドル規模の短期国債購入が事実上の金融緩和と捉えられている。

そのため金標準先物は、FOMC を境に目先の高値 21626 円を上回った事から、週末には 22124 円まで高値を試しており、史上最高値である 22288 円に近付いている。特に今週は日銀金融政策決定会合を控え、金利相場が続くだけに高値更新に注意したいと思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が横ばいし、シグナルも横ばいしている。RCI は短期が上昇し、長期は高止まりを見せている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを維持しながら高値追いを見せており、22288 円を試す動きに注意が必要になると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,740,000 円（2025 年 12 月 15 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 108,240 円（2025 年 12 月 15 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp